

看護部特集 府立医大の看護部の魅力に迫る



京都府立医科大学附属病院看護部は「府民の健康を守り責任ある看護をするために豊かな人格と感受性を持ち、患者および家族の痛みや苦しみが判り、高いレベルの援助が出来る。」という理念の元、800人を越える看護師が働いています。

今回はそんな京都府立医科大学附属病院に今年4月に入職した新人看護師(プリセプティー)と臨床現場で看護師の教育・指導にあたる先輩看護師(プリセプター)に、日々の仕事での様子と京都府立医科大学附属病院看護部の魅力についてお話をいただきました。

共に成長する日々を大切に

C4病棟 心臓血管外科・循環器内科(高度心臓血管外科センター)

プリセプター

綿貫 裕美子 (2015年4月入職)

プリセプティー

瀬戸 花音 (2020年4月入職)

実践力と考える力を養ってほしい

瀬戸 今日はよろしくお願いします。

綿貫 こちらこそよろしくお願いします。こうして改めて話をするのは少し恥ずかしいですね。

瀬戸 はい(笑)。

綿貫 瀬戸さんはその笑顔が本当にいいんですね。患者さんにも大人気で、「今日は花音ちゃん、来るの?」っていろいろな患者さんからよく聞かれるんですよ。そしてやさしい。そのやさしさがきっと患者さんにも伝わっているのじゃないかな。このまままっすぐ、のびのび成長してほしいと、プリセプターとして素直にそう思っています。

瀬戸 ありがとうございます。うれしいです。まだまだわからないことや不安なことばかりですが、のびのびして見えるのは、いつも綿貫さんに見守ってもらっているという安心感があるからだと思います。そういえば綿貫さんは昨年もプリセプターをされていたんですね。

綿貫 そうなんです。その経験も生かして、

今年は新人さんにできることは積極的にやってもらい、またこちらから提供するばかりではなく、自分で考え、答えを導くという経験を多く積んでもらうことを意識しています。

瀬戸 水分出納バランスの経過観察がそうですね。

綿貫 C4病棟は心臓血管外科・循環器内科で、水分出納バランスがとても重要な患者さんが入院されていますから。

瀬戸 バランスの変化で患者さんが今、どういう状態なのか、ドクターにどのように報告すべきなのか、「どう思う?」と聞かれることで、もちろん緊張はしますが、患者さんにとって何がなぜ重要なのかを具体的に理解できる貴重な経験だと感じています。

綿貫 与えられたことだけをこなすのではなく、状況に応じて看護を実践できる力、個々の患者さんにとっての最善を考えられる力の土台を養ってほしいと思うんです。私がプリセプティーだった頃のプリセプターさんのことも思い出しながら



綿貫さん

やっています。

瀬戸 どんなプリセプターさんでしたか?

綿貫 本当に手厚く教えてくれて、何の不安もなかったですね。温かく見守ってもらえ、恵まれた看護師生活のスタートを切れたと思っています。

瀬戸 まるで綿貫さんのようなプリセプターさんだったんですね。それに、病棟の先輩方みなさんに見守ってもらっている



瀬戸さん

という実感もあります。

綿貫 私もそうでした。こういう先輩になりたいなって思う人たちが多くて。それが府立医大で働く魅力かなと思うんですけど。

瀬戸 はい、同感です！

患者さんの笑顔が私たちの力になる

綿貫 話は変わりますが、瀬戸さん、これから私に何でも言ってくださいね(笑)。愚痴でも悩みでも遠慮せずに。言ってもらえてこそプリセプターの存在意義もあるのですから。新型コロナの影響でなかなか一緒にごはんを食べに行ったりできない

のがもどかしいけれど、LINEでもつながっているし。

瀬戸 これからもそうさせていただきます(笑)。でも通常のお仕事と指導との両立は大変なことも多いのではないですか？

綿貫 大変というより、自分の成長にもつながる貴重な機会ですね。聞かれたことにはしっかりと答えないといけませんから勉強もしますし。自分に足りないところに気づかされることもあります。

瀬戸 ずっと勉強なんですね。私も頑張っていきたいと。

綿貫 目標はありますか？こんな看護師になりたいとあって。

瀬戸 やっぱり綿貫さんや先輩方のようにになりたいです。知識や技術だけではなく、患者さん一人一人への寄り添い方を見て、手当という看護の基本を教えもらっている気がするんです。先日も綿貫さんが、術後の患者さんの背中をいつまでもやさしくさすっている姿を見て、心を大事にする看護師になりたいと思いました。

綿貫 患者さんに寄り添うことは、その心に寄り添うことかもしれませんね。例えば、看護師を一番育ててくれるのは患者さん。患者さんの「ありがとう」や笑顔に私たちは報われ、やりがいを感じて、また頑張れる。

瀬戸 患者さんの笑顔のために私たちの笑顔はあるのかもしれないね。

綿貫 その通りだと思います。最初に言ったけれど、その笑顔は瀬戸さんの最大の魅力です。ずっと忘れないでいてください。

瀬戸さんのタイムテーブル



8時 出勤

- 電子カルテをチェック、担当患者さんの情報収集、医師からの指示を確認
- 夜勤の先輩看護師より患者さんの状況について申し送りを受ける

9時 情報共有

カンファレンスで患者さんの情報を共有します

10時 検温、血圧などのバイタルチェック

- 点滴の準備
- ガーゼ交換の介助
- 笑顔で患者さんに接するように心がけています

11時 清拭・洗髪など

患者さんがさっぱりするよう丁寧にしています

12時 お昼休憩

病棟の休憩室で同期・先輩方と昼食をとります

13時 検査の送迎

15時 翌日の内服薬の準備

- 電子カルテに記録

16時 引継ぎ

記録・指導して頂いた先輩と1日の振り返り、わからなかったこと等を一緒に振り返り、次に生かせるようにしています

17時 退勤

看護部長からのメッセージ

看護部長 藤本 早和子

皆様こんにちは。先輩看護師と新人看護師の様子を少しでも感じていただけたでしょうか？新人看護師の瀬戸さんは「教えてもらうことを通して成長」されており、先輩看護師の綿貫さんも、看護師としての経験を通して身につけた知識や技術、態度について「教えることを通して自分自身も成長」されています。

ここで忘れてはならないのは、綿貫さんの経験は「患者さんとの関わりから学ばせていただいた」かけがえのないものであるということです。私たち看護師は、患者さんからも学び、そして成長させていただいていることを忘れてはならないと思います。

看護は患者さんへ「ケアを提供」しているようで、患者さんから「頂いているもの」の方が多いのかもしれません。看護部ではこのような「人との関わりの中での成長」をととても大切にしています。

